

映画に見る懐かしい鉄道風景

駅と人の物語

川本三郎

映画のなかでは東京駅や大阪駅のような大きな駅より、ローカル線の小さな駅のほうが心に残るもの。

北海道から思い出してみよう。もとも北の駅では宗谷本線の抜海駅。稚内の手前にある日本海沿いの小駅。急行はとまらない。無人駅。それでも対面式のホームがある。

小さな駅の出来事

この駅が出て来たのは、蔵原惟繕監督の『南極物語』（83年）。高倉健演じる南極探検隊の隊員でカラフト犬の責任者は、十五匹の犬を極地に置き去りにし帰

国せざるを得なかった。その申訳なから帰国後、北海道各地にいる犬の飼主にお詫びの旅をする。

夏。抜海駅で降りて、農夫らしい飼主の家に行き、頭を下げる。かわりに子犬を置いてゆく。列車を待っている、小さな女の子がもらった犬を引っぱってやってくる。南極に置き去りにされた犬を可愛がっていたから高倉健を責める。「こんな犬、いらぬ」「私の犬、返して」「おじさんなんか嫌いだ」。高倉健は頭を下げるしかない。

抜海駅は一日の乗降客がごくわずかだろう。そんなに寂しいところに住んでいるからこそ、女の子にとっては犬が大事な友達だったに違いない。

根室本線に茶内駅がある。厚岸に近い。ここも無人駅。霧多布湿原の最寄り駅になる。この駅は山田洋次監督の「男はつらいよ」シリーズの第三十三作『夜霧にむせぶ寅次郎』（84年）に出てくる。

渥美清演じる寅は、釧路で理容師の中原理恵と親しくなる。さらに安宿で中年のサラリーマン、佐藤B作と相部屋になる。彼の妻は幼い子供を残して男と駆け落ちしたという。その妻の行方がやっとわかった。霧多布湿原で暮しているという。

人）をつとめたことで有名になった。映画のなかでは幌舞駅と架空になっている。撮影に使われた「幌舞駅」の駅名標が記念にいまも残されている。

根室本線の新得―東鹿越間は、二〇一六年八月の台風被害のため運行が中止になったまま。現在、鉄道で幾寅に行くことは出来ない。

東北地方の小駅で知られるのは五能線の轟木駅（青森県）だろう。難読駅名で「とどろき」と読む。小屋のような駅舎が日本海に向かって建つ。周囲に商店人家はほとんどない。いわゆる秘境駅。

「男はつらいよ」シリーズ第七作『奮闘篇』（71年）では、榊原るみ演じる少し頭の弱い女の子のあとを追って彼女の故郷、青森県の鱒ヶ沢に行った寅の身を案じ、倍賞千恵子演じる妹さくらが、寅の行方を探すため五能線に乗ってこの轟木駅に降りる。

まだ秘境駅ブームなどが起るずっと前のこと。よくぞこの駅を登場させた。さすが鉄道好きの山田洋次監督！と敬服する。

東京に割合近い小駅に中央本線の春日居町駅（山



寅と理容師の女性は、この男の妻探しの旅に付き合うことになる。釧路から根室本線の下りに乗って、降りたところが茶内駅。寂しい小駅で、駆け落ちした男女が住むのにふさわしいかもしれない。ちなみに茶内駅のある浜中町は漫画家モンキー・パンチの出身地。現在、茶内駅の待合室にはルパン三世の看板が置かれている。映画のなかでは駅員がいたが、現在では無人駅になっている。

北海道の小駅で有名なのは根室本線の幾寅駅だろう。富良野と新得のあいだ。降旗康男監督の『鉄道員』（99年）で高倉健がこの駅の駅長（といっても駅員は彼一

高倉健 大竹しのぶ 広末涼子 安藤政信 中川翔子 石橋静江 高杉早苗 高橋由美子 小津野 小林桂樹

人嫌をしつけた日にも 愛する女をしつけた日にも 男は駅に立ち続けた。

原作/渡辺 謙 脚本/渡辺 謙 監督/渡辺 謙

山田洋次 高倉健 大竹しのぶ 広末涼子 安藤政信 中川翔子 石橋静江 高杉早苗 高橋由美子 小津野 小林桂樹